

# 幼児教育史学会 第8回大会プログラム

2012年12月1日（土）

会場：福岡大学文系センター15階

連絡先：〒814-0180

福岡市城南区七隈 8-19-1 福岡大学人文学部内

幼児教育史学会第8回大会開催実行委員会委員長 勝山吉章

電話：092-871-6631（内3812）／ Fax：092-871-6654

E-mail：ykatsu@fukuoka-u.ac.jp

# 【研究大会プログラム】

【受付】 9:00～ 文系センター15階第5会議室前

【自由研究発表】 9:30～12:40

司会：湯川 嘉津美（上智大学）

塩崎 美穂（尚綱大学）

## 1. 9:30～9:55 和田實のカリキュラム論

近藤 めぐみ（東京学芸大学大学院）

幼児教育史上において「誘導保育」を提唱した人物として倉橋惣三（1882-1955）は著名である。本発表で取り上げる和田實（1876-1954）は、倉橋以前から日本の形骸化したフレーベル主義幼稚園の変革に携わり、保育において子どもの遊戯生活を「感化誘導」することの重要性を唱えた人物である。和田は倉橋と同様な論者としては位置付けられているものの、今まであまり着目されてはこなかった。晩年には「幼稚園にカリキュラムは要らぬ」というセンセーショナルな言葉を後世へと残しているが、和田のカリキュラム理解は現代にも通じる洗練されたものであった。本発表では目白幼稚園における実践を俯瞰しつつ和田のカリキュラム論の特徴を実証的に考察する。

## 2. 9:55～10:20 岡山孤児院と二葉幼稚園の社会的結合とその変容

—孤児院と保育所の人脈、表象、統合をめぐって—

稲井 智義（東京大学大学院・日本学術振興会特別研究員）

本報告の目的は、岡山孤児院と二葉幼稚園の関係について、社会的結合という観点から解明することである。これまで、戦前の孤児院と保育所（貧民幼稚園を含む）は博愛事業として並列に論じられることはあっても、具体的諸関係について検討されることはなかった。そこで本報告では、社会的結合（「人と人との結び合うかたち」や「編み合わせの秩序」、二宮編『結びあうかたち』を参照）という観点から、両者の関係を検討する。具体的には、二葉幼稚園から岡山孤児院への子どもの移送を可能にした人脈、孤児院と幼稚園の表象、国家による「育児院」としての統合という三つ事実から、明治後期の両施設の社会的結合とその変容を提示する。

## 3. 10:20～10:45 末期「保育問題研究会」における保母会員の思想と行動

—保育雑誌『国民保育』を手がかりとして—

浅野 俊和（中部学院大学）

1936（昭和11）年10月に結成された「保育問題研究会」は、1943（昭和18）年6月に終焉の時を迎えるまで7年弱の活動期間がある。しかし、1941（昭和16）年3月に機関誌『保育問題研究』が休刊（実際は終刊）されて以降、末期2年間については、不定期に発行された『保育問題研究会月報』全10号が残されているのみで、具体的な活動状況が未だ明らかにされているとは言い難い。特に、論文などが残る研究者と比べて、保母会員の動向は不明な点が多く、先行研究においてもほとんど触れられることがなかった。本発表は、今回発掘した保育雑誌『国民保育』を手がかりとして、そうした末期「保問研」における保母会員の状況を示すものである。

休憩（10：45～11：00）

4. 11：00～11：25 舞鶴幼稚園の掛図・絵画に関する研究

牧野由理（東京都市大学）

本発表では明治期の幼稚園で行われた図画教育の一端を解明するために、図画を行う際に使用されたと推測される掛図や絵画の実態を明らかにすることを目的とする。明治初期に開園した京都府加佐郡舞鶴町立舞鶴幼稚園（現・舞鶴市立舞鶴幼稚園）を対象とし、現存する掛図および絵画の分析を行った。その結果、舞鶴幼稚園には肉筆（手描き）の掛図が多く残されており、その一部が地域の日本画家の手によるものであったことを明らかにした。舞鶴幼稚園には描画作品が存在しないため、図画への直接的な影響は不明であるが、幼児が手描きの掛図や絵画を通して本物の絵画に触れる機会があったことが示唆された。

5. 11：25～11：50 キリスト教幼稚園の創始と保姆養成をめぐって

—三田・神戸の役割と宣教師たちの連携—

畠山祥正（北陸学院大学）

日本において幼稚園が作られ始めた時期、ほとんどがキリスト教の幼稚園であった。そして保姆養成もキリスト教のものが担っていた。日本にやってきた宣教師たちの役割は大きい。彼女たちを助け日本人保姆たちを指導する人材が育っていた点や、まだ指導的人材に限られていた時期にその人材を融通しあった宣教師間の協力関係があったことに驚かされる。兵庫県の三田（さんだ）は、甲賀ふじと和久山きその出身地であり、幕末から明治への変化の時代に武士から平民へと新しい生き方を模索した地域である。幼稚園の創始と保姆養成所の変遷を概観しながら、人のつながりにせまってみよう。

6. 11：50～12：15 両大戦間期イギリスにおける保育学校運動再考

—担い手たちの課題意識—

榎瑞希子（聖徳大学）

イギリスの保育学校運動（Nursery School Movement）は、新規の学校種が国民教育制度に位置付く過程に中心的な役割を果たしたという点では、成功した運動だった。保育学校は、「1918年教育法」で自治体の設置しうる学校種の一つとなり、翌年国庫補助が開始された。1923年には「保育学校協会」が結成され、普及運動の全国組織が成立した。第二次大戦後は「1944年教育法」の定めによって、自治体の設置すべき初等学校の一つとなった。しかし登録設置数は1919年の13校に始まり、1938年までに118校に増えたにすぎない。発表者はかつて保育学校の制度化過程を、学齢未満児の社会的な発達保障の発展史として描いたが、本発表では、普及実態の乏しさに着目しながら、主要な担い手の出自と言説から運動の性格を再考する。

12：15～12：40 全体討論

【昼食】12：40～13：40 学内食堂をご利用ください。

【公開シンポジウム】 13 : 55～16 : 55

## テーマ「幼児教育史における保育運動史研究の意義」

### テーマ設定の趣旨

待機児童2万5千人を超え、政府は子ども・子育て支援への対応を迫られ、認定こども園や総合こども園の拡充・創設などが目指されている。しかし、政府の政策には、子どもの全面的な成長・発達をいかに育んでいくかといった保育保障の視点が乏しいと思われる。

保育保障とは、世界人権宣言や子どもの権利条約、日本国憲法や児童憲章などで謳われているように、子どもの健やかな成長・発達を人権としてとらえ、子どもの生存権、幸福追求権、学習権、子どもの最善の利益などを保障するものである。

したがって、昨今の保育制度改革において喫緊の要事となるのは、保育保障の視点から子ども・子育て支援を再考することだろう。その際、戦後における保育保障を求めた保育運動を史的に振り返ることが重要となってくる。

戦後の保育運動は、だいたい次のプロセスを踏んでいると思われる。まずは、戦後の混乱期のなか、地域ニーズに応えるかたちで保育施設の設置が求められ、それから保育者の資質向上と保育内容の充実がはかられる。そして生涯学習社会のなかで園に、地域のカルチャーセンターとしての役割が求められていく。保育運動の発展が、戦後における保育保障の内実を豊かにしていったと言える。

日本における幼児教育史研究を振り返ると、このような戦後における保育運動史を取り上げている論考は少ない。そこで、本シンポジウムでは、今後の保育運動史研究の発展の一つの基盤形成として、戦後の保育運動史を取り上げてみる。

まずは、浅野会員に、保育所づくりや保育研究運動などを中心にしながら、戦後における保育運動の全体構造を俯瞰していただく。次に成富氏に、福岡における保育運動を自らの経験も含めて語っていただく。そして、宍戸学会長に、幼児教育史における保育運動史研究の意義について総括していただく。

司会者： 勅使千鶴（日本福祉大学）

報告者： 浅野俊和（中部学院大学） 「戦後日本の保育運動」

成富清美（福岡保育問題研究会） 「福岡の保育運動に関わって」

指定討論者： 宍戸健夫（愛知県立大学名誉教授）

【総会】 16: 55～17: 40

【懇親会】 18: 00～19: 30

### 費用

大会参加費：正会員・臨時会員 3,000円 学生会員 2,000円

懇親会費：正会員・臨時会員 4,000円 学生会員 2,000円

※ 上記費用は、当日受付でお支払いください。

※ 公開シンポジウムのみ参加は無料です。

※ 懇親会会場は文系センター15階第7会議室を予定しています。

## お知らせ

「幼児教育史の研究動向を愉しみながらフォローする会」を開催します。

日程：2012年12月2日（日）9：30～12：00

福岡大学文系センター15階第6会議室

内容は学会当日にご案内いたします。

### 宿泊

宿泊施設の一覧表をご参考の上、各自ご準備ください。

尚、翌日の12月2日（日）に福岡国際マラソンが開催されます。全国からランナーが集結し、予約が取れないことが予測されます。宿泊施設のご予約はお早めをお願いします。

宿泊施設一覧表 ※ネット予約の方が格安です。

地区	ホテル名称と電話番号	アクセス	料金目安
天神	リッチモンドホテル福岡天神 092-739-2055	西鉄天神大牟田線 福岡天神駅より徒歩3分	¥6,000～
	東横イン福岡天神 092-725-1045	地下鉄七隈線天神南駅より徒歩4分	¥5,980～
	コートホテル福岡天神 092-733-0330	地下鉄七隈線天神駅1分	¥4,100～
薬院 ・中州	ニューオオタニ博多 092-714-111	地下鉄七隈線「渡辺通駅」下車徒歩1分	¥10,000～
	タカラホテル福岡 092-731-1661	西鉄&地下鉄七隈線 薬院駅より徒歩2分	¥9,500～
	アパホテル福岡渡辺通り 092-526-1111	「渡辺通駅」2番出口より 徒歩3分	¥8,000～
	KKRホテル博多 092-521-1361	地下鉄七隈線「薬院大通駅」徒歩3分	¥6,000～
	セントラルホテルフクオカ 092-712-1212	地下鉄七隈線「渡辺通駅」そば	¥4,500～
	ホテルエルビー福岡天神南 092-534-3111	地下鉄渡辺通駅1番出口徒歩2分	¥3,980～
博多駅	八百治博多ホテル 092-483-5111	JR博多駅、博多口から徒歩5分	¥4,300～
	ホテル法華クラブ福岡 092-271-3171	JR博多駅、博多口より徒歩約10分	¥4,100～
	アールイン博多 092-282-1170	『中洲川端駅』より徒歩5分 博多駅より徒歩10分	¥4,000～

福岡大学へのアクセス : <http://www.fukuoka-u.ac.jp/help/map/>

※早くて便利な地下鉄をご利用ください。

**福岡空港、新幹線博多駅から地下鉄ご利用の場合：** 所要時間約1時間（乗り換え時間を含む）

地下鉄「福岡空港駅」および地下鉄「博多駅」から地下鉄空港線にて「天神駅」下車。「天神地下街」をてくてく歩いて（約15分）地下鉄七隈線の「天神南駅」へ。「天神南駅」から「福大前駅」まで乗車。「福大前駅」の改札左側の①番出口を出て、正門より入る。正門すぐの左手にある16階建ビルの15階。

※地下鉄「天神駅」から地下鉄「天神南駅」へは、特別の改札機（緑の改札機）を利用してください。そうしないと割引料金となりません。両駅は、地下街の活性化のために、アホらしいことですがわざと結合されていません。

※お帰りの際、地下鉄「天神駅」から博多駅や福岡空港に向かわれるとき、地下鉄空港線は、「中洲川端駅」で貝塚方面「箱崎線」と分かれまます。貝塚方面の車両にはご乗車されないうでください。

**高速バスご利用の場合：**

博多駅到着の場合は、福岡空港、新幹線ご利用の場合と同様に、地下鉄空港線～地下鉄七隈線に乗り換えてください。天神バスセンター到着の場合は、「天神南駅」より地下鉄七隈線にご乗車ください。

**タクシーご利用の場合：**

福岡空港からは所要時間30~40分で、4,700円ぐらいです（都市高速利用）。  
新幹線博多駅からは所要時間45分で、3,200円ぐらいです（一般道使用）。  
ご利用の際は、南部タクシー（092-871-2386）が便利です。

※福岡の地下鉄、西鉄バス、国鉄（JR）では関東で使われているSUICAが使用できます。

※お車でお越しの際は、大学病院の駐車場をご利用ください。（有料：最初の4時間200円）

